



ひまわりぐみ



新しい友達1名を迎え、ひまわりぐみは17名となりました。『ひまわりぐみ』と呼ばれることや大きくなったことが嬉しくて、新生活が始まった1～2週間は、年下の友達の面倒をみようとして一生懸命頑張っていました。3週間目になると「先生、〇〇ちゃん、お話聞いてくれない」「お部屋に入らないって…」等と面倒を見る大変さを話してくるようになりました。まだ、自分の事で精一杯の子ども達ですが、年下の友だちの気持ちに寄り添おうとする姿、どうしたらいいのか考える姿に、保育者がちょっとした手助けをしながら、思いやる気持ちを育てていけたらと思います。とはいえ、もう5歳でもまだ5歳。甘えたい気持ちも沢山あります。「頑張ったね」と言葉をかけるだけでなく、ギュッと抱きしめる時も作り、一人ひとりのペースで心も体も成長していけるようにしていきたいです。1年間よろしくお願ひ致します。

たけのこ掘り

あとちょっと…



保育園の林にたけのこが出てきている事を話すと、たけのこ探しが始まりました。先端が緑色の頭をちょっと覗かしているたけのこ。草と見分けがつかないので、子ども達は、腰を屈めたり、手でかき分けたりして、夢中で探していました。

「たけのこあったよ!」の声に駆け寄り、「シャベル、貸して」「次に掘りたい」とみんなで力を合わせ掘りました。中々掘れないたけのこ。掘れた時は「やったあ!!」と歓声をあげ、「今日の給食は、たけのこご飯だね!!」と満面の笑みの子ども達でした。



(当日のたけのこご飯は無理でしたが、別の日に給食で出してもらい、喜んで食べていました。)

調べてみよう…

保育園には、絵本や図鑑、大人が見るような難しい本等々があり、子ども達は興味のある本を自由に手に取り見えています。『どう作るのかな?』『あの虫は、なんて言う名前かな?』と今までは、保育者に聞いていたことを「そういえば、何かに書いてあった!」と自分で本を取り出し調べています。

